

「本氣」という言葉を構成する三つの要素「努力、協力、質素」のバランスがとれた時、初めて周りの人に認められ、チームも機能すると考えています。生徒たちには、試合の勝ち負けではなく、長い人生の中で人の上に立つリーダー性を見出せるようになって欲しいと願っています。

奈良県立御所実業高等学校ラグビー部 監督

ひろ ゆき  
竹田 寛行氏



平成27年3月3日、同校体育教官室にてインタビュー

### ▶ 勉強よりもラグビーが面白くなって

— いつ頃ラグビーを始められたのですか？

高校1年の終わり頃です。私は徳島県の脇町高校の出身ですが、その地域は四国ラグビー発祥の地と言われ、父や叔父もラグビーをやっていました。

脇町高校は進学校でしたが、年2回、球技大会でラグビーの試合がありました。生徒自らルールや戦い方を勉強し、体育の授業でラグビーをやっているうちにのめり込み、最終的に優勝しました。

ラグビーは仲間とシェア（共有）できるものが大きく、クラスをまとめる力があります。ラグビーにはまったのは、そういう所です。

ただ、2年生になると、みんな受験のためにラグビーをやめていきました。私はラグビー部に入部し、勉強よりもラグビーが面白くなっていました。約1年後、脇町高校ラグビー部が、四国の大会で約24年ぶりに優勝したのです。

— 天理大学でもラグビーをされていましたがね。

黒のジャージがかっこよくて強かった天理大学に進学し、ラグビーを続けました（ナンバーエイトで活躍）。卒業後は企業へ行きたかったのですが、親から帰ってこいと言われ、池田高校の寮の舎監<sup>(\*)</sup>をしました。ただ、現役でラグビーができるのに、このままで終わりたいとの思いが強く、親から勘当気味で家を出て天理大学のコーチになり、奈良県のわかさ国体にも県代表として参加しました。

\* 寄宿している学生・生徒の生活指導や監督をする人。

保健体育教師として大淀高校で3年過ごし、陸上やサッカーの指導にのめり込みそうになっていました。当時は教師の傍ら休日等に社会人ラグビーの関西Aリーグで活動していたので、自らラグビーを指導できる学校への異動を願い出て、平成元年に御所工業高校（現：御所実業高校）に赴任しました。

— まだ現役で続けておられたんですね。

はい。Aリーグに約3年、Bリーグに5年程いました。Cリーグに落ちた時に辞めましたので、34歳頃まで現役でやっていたことになります。体育の授業と一緒に運動していましたので、体力には自信がありました。

## ▶本気モードになって奮起

— 御所工業高校（当時）ラグビー部の監督に就任された時は、部員は2人だったそうですね。

創部は昭和23年で歴史があったのですが、監督就任時の部員は3年生2人だけでした。ゼロからのスタートでしたが、ラグビーに携われることがとても嬉しかったです。

高校時代に球技大会のラグビーを通じてみんなとコミットする（関わり合う）ことで、すごい共有がありました。その体験が自分にはとても印象深く、そのようなことを教えてあげられる指導者になりたいと思ったのです。



当時は天理高校が日本一でした。初めて奈良県高等学校ラグビー部顧問会議に出席した際、自己紹介で「花園を狙います」と述べたあと、天理高校出身のOBである先輩から「お前、部員2人で本気で花園狙ってんのか！」と偉そうに言われました。悔しくて情けなかったですが、その時に本気<sup>(\*)</sup>にさせられたと思います。

\* 竹田監督が普段から「本気」という表現を使用。

— 本気モードにさせられたということですね。

「やりもしないで何偉そうに言うとなねん」とも言われ、「よっしゃ、やったろう」と思いました。奈良県のラグビー界には独特な考え方があり、

他の顧問の先生方から「いくら頑張っても天理高校には勝てない」とも言われました。これでは他の高校は天理高校に絶対勝てないと思いました。

そこで1年生の体育の授業を見て、身体の大きい子ばかりを入部させました。当時の御所工業は荒れていましたね。3年生の2人は真面目でしたが、入部した生徒は学ランやリーゼントがすごかったです。自宅謹慎になった子も練習に誘い、最終的に17人の1年生が残りました。

— 誰もラグビーの経験が無いのでは？

5年間ほど公式戦に出ていませんから、3年生も経験がありません。部室に何も無かったので、大学に行って不要なボールやスパイクなど、あるもの全部欲しいと頼み、いろんな企業にも頼みに行きました。ジャージだけは良い服を着せてあげたかったので、自分で作ったりしました。

私は、部員を生徒と思わず、一緒にラグビーやる仲間という目線であれば、ラグビーの練習だけではなく、生徒と何かを共有できるかなと考えました。そこには相手をリスペクト（尊敬）するという要素が入ってきますが、自分はそのままで複雑に考えていませんでした。

4月中旬の寒い夜、教室に新聞やボール紙を敷き詰め、17人の生徒と泊まりました。私が作った塩辛い味噌汁を生徒が黙って食べている姿を見て、泣きそうになりました。

— 他の先生には気づかれなかったのですか？

誰も気がついていません。月4回ほど泊まり込み合宿をしていました。一緒に同じご飯を食べて、銭湯へ行きました。テスト前は教室に泊まって勉強も教えていました。生徒らと同じ目線になると、合宿の件について子どもや親が私をかばうようになってきて、不思議ですよ。

周囲から素行を注意してもらえよう、ラグビー部と大きく書いた真っ赤な鞆を全員に持たせました。しばらくして練習の規律も正しくなり、ラグビーに段々のめり込んでくるようになりました。

生徒が試合を希望したので、負けるとわかって

いましたが、奈良県チャンピオンの郡山東中学校と試合し、トライ4本対0本で負けました。元番長ばかりでしたから、何か問題を起こすかなと心配していましたが、何もありませんでした。

普通はその場で解散するのですが、学校へ戻って練習しました。中学生との再試合を申し出てきたので、「嫌でもお前ら、ちゃんと練習するんか」と問い、誰も練習を休まなくなりました。

部員はルールも知らなかったですが、体格が大きいので少しコツさえつかめば変化し、1週間後の試合で2本対1本で勝ちました。みんな横柄な態度を取らず、黙って口元だけにやけていました。

私が顧問会議で本気にさせられ、生徒も中学生と試合して、ちょっと本気ムードを作ってくれました。そこが本当の意味でのスタートでしたね。

### ▶部員たちの成長した姿に感動

—— 短期間にみなさん成長されたのですね。

その後の大会で天理二部（定時制）に50対0で負けましたが、4か月後の全国予選大会では公式戦初勝利しました。その後も天理二部に大差で負けましたが、天理二部は4年生で、当校はほとんど1年生でしたから体格も全然違いました。

翌年5月、天理二部との練習試合でスクラムが落ちて、2年生の北島が第6頸椎を損傷し、手術しても助からず亡くなりました。その時の校長や教頭の対応で人間不信に陥り、教師を辞めようと思いました。そこから半年ほど活動を自粛しました。

—— 先生が自宅謹慎になったのですか？

部員が「なんで監督が謹慎なんや」と言って校長室に詰め寄りました。その後、亡くなった子の両親も校長に掛け合ってくれましたが埒が明かず、教育委員会へ嘆願書を出して下さったそうです。みなさんのご支援もあり、その状況を乗り越えてラグビー部の活動を再開することができました。

半年間何もしていなかったはずなのに、みんな身体が大きくなっていました。私から何も言われないのに、いつかラグビーを再開できると信じて、

自主的に半年間トレーニングしていたのです。

—— 素晴らしい生徒さんたちですね。

練習を再開して約1か月後、春の近畿大会奈良県予選で決勝まで進み、前年に日本一だった天理高校と戦い、10対9で負けました。試合終了のホイッスルがなった時、生徒がわんわんと泣いている姿を見て、「君ら、すごいなあ」としか言えませんでした。そこからが本当の再スタートでした。

そして全国予選の奈良県決勝では、終了間際まで天理高校を6対6の接戦に追い詰めたのですが、負けてしまい全国出場を逃がしました。

3年生が卒業し、1学年下の子たちは目的意識が低く、私が「帰れ」と言うと、「帰ろう」と言って帰るような世代でした。言葉を選ばないといけないと改めて悟り、この子らと共に同じ目線で見える、語れる言葉探しをするようになりました。

その後も天理高校とは僅差で負ける試合が何度かあり、平成7年に全国大会初出場を果たしました。

—— どのようにチーム力を強化したのですか？

ルールの分からない子にルールを教えても無駄です。最初は自由にやらせ、徐々に正式のルールに変えていってあげるようにしました。



天理高校との試合に向けてパスワーク練習に時間を割く余裕が無く、チームとしての武器づくりを一つに絞ろうと考え、当時どこも採用していなかった「モール」（密集戦の一つ）の強化に取り組みました。気が荒くて体格の大きい部員ばかりでしたから、「ボールを持ったら、皆固まって押していけ。他は何も覚えんでいい」と指示しました。モールは、誰も倒すことはできませんでした。

## ▶本氣を貫き「努力、協力、質素」のバランスを — チームづくりで心掛けていることは？

「<sup>きゃっかしょうこ</sup>脚下照顧<sup>(\*)</sup>」という言葉がありますが、私が今やっていることは、自分が筒一杯（限界）になってしんどい時に、周りのムードを読めたり、笑顔で人のことを助けたりできる大人にしてあげたいということです。

\*自分の足元をよく見よ、身近なことに気をつけるべきという意。他者に理屈を言う前に、まず自分の足元をよく見て自分のことを反省すべき。

どんな場面でも言えることですが、前を見て判断し、同時にトーク（声掛け）とムーブ（行動）ができるということが大事です。そういう生活の基盤を常に作り、適当ではなく本氣を貫いて欲しいです。前を見ないのは、人と会話しないのと同じです。後ろを振り返って反省し、フィードバックすることも大事ですが、それだけだとエラーから次に進むことができません。同じエラーをしないようにトークし、前に進もうと判断していく勇気がすごく大事になってきます。

今、自分がやっていること、何のためにやっているかということ分解し、シェアしてもらるように努めています。先ほど述べた「本氣」という言葉の中には、「努力、協力、質素」という三つの要素が含まれています。

一つ目の「努力」は、目標のある努力、責任・役割を入れた努力です。みんなが普通にする努力とは、違う空間の努力です。同じ目線で努力していたのでは絶対無理なので「努力の向こうの扉を開けようじゃないか」といつも言っています。

二つ目の「協力」は、シェアです。共有してもらえる人がどれだけいるかということが常に分かって「おかげ」があります。一番しんどい時に、「俺が一番しんどいんや」というような顔をしない、言わない。逆にそういう時に親にも感謝できるか、「お母さん、おいしいお弁当を作ってくれてありがとう」と言えるか、ちょっとした気遣いができるかどうかです。

グラウンドでチームメイトがしんどそうな顔を

している時に「大丈夫か、今を乗り切ろう」などと一言いえることが、チームのムード作りでは大切です。スポーツの良さは、そこだと思います。

三つ目の要素である「質素」は、横柄な態度をしていると足元からすくわれ、色んな問題が出てきますので、そういうことが無いように常に自分の足元から見直す必要があるということです。

脚下照顧でありたいと常々話していますので、子どもたちもそういう言葉を常に使うようになりました。言葉だけでなく、姿勢も変化しています。彼らから誰にも動じない生きる姿勢を強く感じ、その成長にすごく勇気ももらっています。

「本氣」という言葉を構成する、「努力、協力、質素」という三つの要素のバランスがとれた時、初めて周りの人に認められ、チームも機能すると考えています。

## ▶自ら学ぶという質素な姿勢を

— 具体的にはどのような指導を？

目標設定の用紙を手渡すだけでなく、目標のキーとなる要因、K S F（主要成功要因）とその分解の意味をグラウンドに掲示し、常にみんなが読めるようにしています。また、大会前や合宿など大事な時期に、部員が今悩んでいることを記入したラグビーノートを持ってきて、私が助言等を記入し返却しています。リーダーとは「LINE」で長い文章をやりとりしています。

— 人材育成はどのようにされていますか？

平成元年の赴任時から、毎朝一番に学校に来て正門を開け、早朝からトイレを含め自分が使う所や周辺の掃除を続けていたのですが、やり始めてから4、5年程すると私が来る前に生徒たちが掃除をするようになりました。私から何も言っていないのですが、いつの間にか掃除を生徒に取られてしまい、今では競争みたいになっています。

— 生徒さんの成長は、すごいですね。

本当にありがたいことです。生徒に教えるというよりも、今は教えられることのほうが多いです。

日常の行動、生き方は、将来にもつながってきます。試合の勝ち負けではなく、長い人生の中で人の上に立つリーダー性を見出せるようになって欲しい、そういう考え方でラグビーを通して一緒に勉強しています。

——生徒さんのモチベーションを高めるためにされていることは？

ラグビーは、努力の結果がすぐに数値に出ます。例えば100kg以上のベンチプレスなどを2か月も続けていれば、体重や筋肉はすぐ変わります。要は、やる気があるか、ないかの問題です。



注意していることは、ベンチプレスを上げることが目的ではなく、どの動きを強化するためにそのトレーニングが必要かを理解させ、次へつなげていくことです。

何をしたら良いか分かっていない生徒には、一つでも良いからできることからやらせるようにしています。それがスペシャリストの養成です。例えば、持久走が速いのなら持久走の匠にさせる、パスが速かったらパスを長く、速く放らせるなど。

3年間でモノになるかどうかを見極めた上で、各自の役割に一つひとつのテーマを与え、その努力に合わせてエキスをに入れてあげることが大事です。

企業経営にも当てはまるとは思います。個人のスペシャリストを育成し、各自がチーム内での役割と責任を自覚し、それを果たしていくことによってチームとしての信頼が生まれてくるのです。

——週末に全国の高校のラグビーチームがこちらへ練習に来られるそうですね。

毎回、たくさんのチームが練習に参加してくれています。「御所詣<sup>もうで</sup>」と言われているらしいです。

9月、10月はほぼ毎週ありますが、多い時で親御さんも含め1,500人ぐらい来られます。暑い日は自動販売機の炭酸飲料が無くなるとよく聞きます。

相手校のレベルに合わせて、うちの生徒が勉強し、いつも練習していることを「今日はこうやろう」などとチームトークします。どのようにやればシェアできるかにポイントを置いてやりますので、生徒自身の勉強になります。

——生徒さん同士で教え合うのですか？

そのとおりです。沢山の学校に来てもらうには、教えるという考えではなく、自ら学ぶという質素な姿勢がなければいけません。

自分がやっていることを理解して分解しておかないと、何もできません。自分がカツカツの状況でやっていると、どのようにシェアしたらよいか分からないので、自分が必死に練習やらなあかんです。ですから、当校が教えているのではなく、逆に勉強させてもらっていると言えます。

7月の中ごろに御所市総合運動公園の人工芝グラウンドでこけら落としのフェスティバル（20分刻みの練習試合）をやりますが、その時には大阪、京都のほか、東京、愛知、長崎など全国のチームが参加してくれます。こちらへ来ていただけるのは大変有り難いです。

昨年10月、南アフリカの代表メンバーがアシックスの招きで来日した際、東海大学付属仰星高校との練習試合を行っていた当校に来てラグビー教室を開催し、トップレベルの技術を教えてくれました。短い時間でしたが、彼らのプレーを見て時間を共有できたことに皆感激していました。

### ▶当校は挑戦する立場、練習環境の違いは関係ない

——先生のご自宅を寮にされているそうですね。

今は1、2年生ですが、自宅から通学できない生徒（同校は県外受験が可能）を10人預かっています。家を借りて、そこに住んでもらっている

ます。出身地は兵庫県や愛知県、長野県などで、最も遠い所では茨城県から来ています。

— お料理だけでも大変だと思いますが。

家内が大変ですが、頑張ってくれています。逆に24時間、私に見張られているようなものですから、子どものほうが大変でしょうね。

日頃会えない日本代表の監督やトップリーガー、外国選手などが我が家に来ることが多く、土産もたくさんいただきます。生徒からすると嬉しい時もあるでしょうが、それより人間的なことやマナーについて言われるわけです。今風の若者ですから中々できませんが、「親しき仲にも礼儀あり」で、食事、風呂、洗濯など、気が緩みながらも周りに気を使うことは、すごく大事です。

— 最近は、してもらおうことが当たり前みたいな発想の子が多いですからね。

家に洗濯機が7台、炊飯ジャーが6台程あり、風呂も大きくしています。風呂や食事、トイレなど、次に利用する人が使いやすいように、片づけやすいように配慮する。雨の日の練習後はユニフォームも泥だけになるので、洗濯も大変です。たまに洗濯機の水を出したまま、練習で疲れ果てて寝てしまう子もいます。

— 生徒さんが洗濯されるのですか。女子マネージャーに押し付ける学校もあるようですが。

そんなことは自分でしなければなりません。うちのマネージャーは、そのようなことは絶対にしません。チームの運営や体調管理、段取りなどを担当しています。他校からマネージャーをしたいという女子高生が一杯来ますが、「ありがとう、また応援してね」と断っています。

— ラグビー部の監督に就任されてから、多数の教え子の方が卒業されたと思いますが。

「御友会（御所実業ラグビー部OB会）」を組織し、色んな面で支援してくれています。その代表をしてくれているのが、最初の部員17人のうちのキャプテンです。みんな時間の許す限りグラウンドに来てくれ、花園にも応援に来てくれます。

各エリアにOBがいますし、御所実業出身のトップリーガーも多いです。

彼らが企業の中でリーダー的な存在になり、人のムードを読める男でいてくれたら、ここでラグビーをやってきた意義があるのだと思います。

— 奈良県や関西の高校ラグビーの水準は？

とても高いです。当校の場合、全国高校ラグビーフットボール大会（花園）にこの7年間で6回出場し、準優勝が3回、3位が1回、ベスト8が1回、1回戦負けが1回です。



— 公立高校は私立より不利だと思いますが？

練習環境は全然違いますが、そんなことはあまり考えていません。確かに当校には天理高校のようなラグビー専用グラウンドはありませんが、野球部と共有しながら決められた範疇の中でやるので、練習環境は関係ないです。幸い当校は工業系なので、ベンチプレスやウエイトマシンなどの練習器具はほとんどが先生による手作りです。

当校は挑戦する立場にあります。当校が全国大会に出る時は、いつも天理高校に僅差の勝利です。今はラグビーだけでなく、試合相手やレフリーとのマネジメント、いわゆる駆け引きの要素を入れないと勝てません。レフリーの性格を分析し、どこを見ているかということも視野に入れた駆け引きが必要になっています。

— 試合直前や試合中に心掛けていることは？

試合の緊張感からか、選手が勘違いをして、前を見ずに自分の感性だけで日頃と違うことや、目新しいことをやろうとしている時があります。

選手を信頼していない訳ではありませんが、彼らも迷う時がありますので、そういうことをさせ

ないように常にベンチの前に立ち、選手と一緒に目線に立つようにしています。「違うぞ!」「今はこの時間帯や」などと、いつも声を掛けて一緒に戦っています。

## ▶ラグビーの魅力をたくさんの人と共有したい

### — ラグビーを通じた青少年育成の取り組みは？

地元の掖上小学校や御所中学校でラグビースクールを開催しています。小中高の一貫で選手を育成し、御所市の活性化に貢献できればと考えています。朝町のグラウンドが人工芝化されたら、小学生から年配の方にまで参加していただけるような教室を毎月1回開き、ラグビーの魅力をたくさんの人に共有してもらえたらと思っています。

### — リーダーシップのあり方についてお考えをお聞かせ下さい。

人の上に立つ人間で勉強不足な人ほど、横柄な態度を取ったり、文句を言ったりしがちです。上に立つようになったから偉いのではなく、そこは質素であり続ける努力が必要だと思います。

人に助言する時も、自分の意見を押し付けるのではなく、人の話を聞いてそれに寄り添えるような人間でなければなりません。人の話を聞いて「自分も勉強するわ」と言えるような度量の持ち主であれば、相手もやる気を持つと思います。

会社でも「お前、やってみろ」と言われてやり始めたら、商談の最後によく口を挟んでくる上司がいますが、部下はやってられないですよ。失敗しても最後までやらせてあげるべきです。

入部してきた素人の子が練習で失敗しても、みんなカバーしながら最後まで頑張らせています。そうすることで、みんなと失敗を共有でき、同じ失敗をしなくなります。染まった人間には、染まった回答しか出ませんが、新しい失敗をやらせてあげることで、私らが発見できないような新しい空気、空間が生まれます。そこが指導者の一番勉強になるポイントだと思っています。

### — 若い社会人へのメッセージをお願いします。

どんな場面にも苦しい時がありますが、自分一人で悩まず、横柄にならず、日頃から「はい、すみません。ありがとうございます」と素直に言えることが大切だと思います。自分が一番苦しい時でも、ニコッと笑ってその場のムードを読み、気遣いできる人になってください。

## ●プロフィール 竹田 寛行 氏

### ■主な経歴

1960年、徳島県美馬市出身。天理大学体育学部卒業（ラグビー部所属・ポジションはNo.8）。奈良県の高校教諭になり大淀高校を経て、1989年奈良県立御所工業高等学校（現：御所実業高校）に赴任。同年ラグビー部監督に就任、現在に至る。

### ■座右の銘、好きな言葉

「本氣」「<sup>そったく</sup>啐啄の機」(\*)

\*鳥の雛が卵の殻の内側からコツコツと叩く「啐」と、親鳥が卵の殻の外側からつつく「啄」のタイミングが合わないと、鳥の雛は自分で殻を破って出てくることができない。「教える側と教わる側のタイミングが合わないとうまくいかない」といった意味。

### ■趣味

言葉探し

### ■私のモットー

スイッチのオンオフの切り替えなどをきちんとする

### ■好きな食べ物

焼き鳥

### ■お勧めの本

「月刊PHP」（株）PHP研究所

### ■奈良県内で一番好きな場所

国見山（御所市）

### ■所属団体等の概要

- ・団体名：奈良県立御所実業高等学校ラグビー部
- ・所 在：奈良県御所市玉手 300 番地
- ・創 部：1948年（昭和23年）9月
- ・公式戦通算戦績（2015年1月現在）
  - ◎全国花園大会：出場9回、準優勝3回、3位1回、ベスト8・1回、ベスト16・1回
  - ◎全国選抜大会：出場4回、準優勝1回、3位1回、ベスト8・2回

（聞き手・文責：島田清彦）